

北京日本人学校 令和4年度卒業証書授与式

垂秀夫大使 祝辞

令和5年3月9日（木）

北京日本人学校体育館

卒業生の皆さん、保護者の皆様、本日はご卒業誠におめでとうございます。

本日、34名の皆さんが卒業式を迎えられることを、心よりお慶び申し上げます。

卒業生の皆さんの頭の中には今、何が思い浮かんでいるのでしょうか。友達と共にこの学校で過ごした楽しい出来事が、次から次へと頭をよぎっているのでしょうか。

今日の卒業の日を迎えることができましたが、この約3年間は新型コロナウイルスにより、皆さんの学校生活にも大きな影響があったと思います。中には、日本へ帰国してそのまま退学してしまい、きちんと「さようなら」を言うこともできなかった同級生やお友達もいるでしょう。

日本、中国、また世界全体が、約3年間続いた新型コロナウイルスの影響から少しずつ抜け出ようとしています。皆さんには、これ

からの中学校生活、高校生活で、勉強やスポーツだけではなく、学校内外での活動を思う存分に楽しんでほしいと心から願っています。

皆さんが卒業するに当たり、是非考えていただきたいことがあります。それは「縁」ということでもあります。

なぜ皆さんは、北京で生活し学んでいるのでしょうか。ご両親の仕事の都合やその他色々な理由があると思いますが、必ずしも皆さんの意思で選んでいるわけではないでしょう。それでも、「縁」があるからこそ北京で生活しているのです。

私の好きな中国の諺に、「縁があれば千里離れていても知り合いになれる、縁がなければ対面していても知り合うことはない」（有縁千里来相会、無縁対面不相逢）という言葉があります。皆さんにはこの言葉のように、自分は特別なご縁があって中国にいるのだと積極的に考え、将来どのような分野で活躍しようとも、この地で経験したことや出会った人たちのこと、北京日本人学校で学んだことを忘れず、自分なりの「人間ドラマ」の主人公となり、日中の架け橋となってもらいたいと思います。

保護者の皆様、外国でのお子さまの教育については、様々な御心配も多かったことと存じます。私も以前、我が子を日本人学校に通

わせていましたので、皆さんの気持ちはよく理解しております。特にこの3年間は、新型コロナウイルスによるオンライン授業への切り替えや、保護者も学校に入れない、行事に参加できないという制限が続き、お子様の健康面や学習面の不安もあったと存じます。

そうした中で、こうして本日、晴れてお子様が卒業の日を迎えられましたことは、保護者の皆様の献身的な愛情があったからこそと思います。今この時に中国・北京に住み、北京日本人学校で学んだからこそ得られた経験がきっとあったはずです。それを、今後のお子さまの人生のために、最大限生かしていただければと存じます。

最後に、小島（こじま）学校運営理事会理事長、細野（ほその）校長をはじめとする北京日本人学校の関係者の皆様に、改めて本日の卒業式に対する祝意を申し上げ、私の挨拶と致します。

本日は誠にありがとうございます。

(了)